

# CVIT2019 参加報告

華岡青洲記念心臓血管クリニック 山口隆義

皆様こんにちは、華岡青洲記念心臓血管クリニックの山口です。今年も、CVITに参加してきました。CVITとは日本心血管インターベンション治療学会で、今回で28回目の学術集会となります。私の所属する華岡青洲記念心臓血管クリニックは、まさにこの学会で議論されるカテーテル治療を実践している施設です。幸運にも毎年役割を頂いており、今年も一般演題の座長とシンポジウムの演者を務めて参りました。

シンポジウムですが、「FFRだけじゃない!!Physiologyの世界」という事で、私は「CTによる心筋 viability 評価」という内容で発表しました。他にはMRI、心電図および超音波、核医学の演者で構成されていましたが、これまで行われてきたこれらの検査の理解をより深めようという意図があるようでした。また、私が座長を担当した一般演題は、アンギオやCT、MRIに関する演題群で、色々と興味深い発表がありました。その中の1つをご紹介しますと、最近ではPCI時に透視保存を有効に活用しようという流れがあり、撮影を省いて被ばく線量を低減できる訳ですが、透視データは撮影と同じDICOMデータですから、サーバ容量への影響が無視できない状況です。そこで、バルーン拡張時等のデータは動画での透視保存をせずに、last image holdの画像1枚とする事で、大幅にデータ量を減少させる事ができるという発表がありました。これってすぐに使えるような考えですよ。

その他には、久しぶりにハートフローのFFRCTに関するセッションを聴講してきました。昨年に保険点数がついたものの、施設基準が厳しく、これを使用できる施設は限られているわけですが、大学病院等の施設だけではなく、我々のクリニックのような循環器専門施設を含む一般の市中病院でも、このFFRCTを使用する事でPCI

の適応を効率よく的確に決定できるとの報告もなされておりました。

CVITは学術集会ですが、カテーテル治療のライブデモンストレーションも行われており、とても充実したプログラムです。今年も様々な情報を得たい所でしたが、週末に当院の新棟のお披露目会があり、その準備のため、初日1日だけの参加となってしまいました。美味しいものが沢山ある名古屋開催でしたので、以前から行って見たかった老舗の居酒屋さんにだけは足を運んできました。外見からして渋いでしょう〜。北海道から CVITに参加されている方は少ないので、もし来年参加する方がいましたら、お声がけ下さい。

